

〔平成 30 年度決算の概要〕

【資金収支計算書】

(収入の部)

学生生徒等納付金収入は、法人全体の学生・生徒数が前年度と比べて若干減少したため、予算比では 63 百万円増加したものの、前年度比 6 百万円減少の 4,460 百万円となりました。

手数料収入は、入学検定料収入が増加したため、予算比 15 百万円増加、前年度比 1 百万円増加の 64 百万円となりました。

寄付金収入は、予算比 5 百万円増加、前年度比 15 百万円減少の 5 百万円となりました。

補助金収入は、予算比 59 百万円増加、前年度比 109 百万円減少の 1,165 百万円となりました。

付随事業・収益事業収入は、予算比 8 百万円減少、前年度比 17 百万円増加の 106 百万円となりました。

受取利息・配当金収入は、予算及び前年度実績とほぼ同額の 17 百万円となりました。

雑収入は、私立大学退職金財団からの交付金収入が増加したため、予算比 28 百万円増加、前年度比 16 百万円増加の 144 百万円となりました。

前受金収入は、奨学金支給対象者が想定以上に多かったため、予算比では 132 百万円減少したものの、前年度比 33 百万円増加の 794 百万円となりました。

その他の収入は、学園新校舎が今年度に完成しておらず、第 2 号基本金引当特定資産取崩収入 400 百万円を計上しなかったため、予算比では 396 百万円減少し、前年度に高校新校舎建築に係る補助金の未収入金収入があった影響により、前年度比 360 百万円減少の 210 百万円となりました。

その結果、収入の部合計は、予算比 439 百万円減少、前年度比 188 百万円増加の 8,988 百万円となりました。

(支出の部)

人件費支出は、主として教員人件費支出が減少したため、予算比 66 百万円減少、前年度比 6 百万円減少の 3,478 百万円となりました。

教育研究経費支出は、消耗品費支出、報酬委託手数料支出等が想定よりも少なく、予算比 22 百万円の減少となりました。また、前年度に高校 1 号館改修工事に伴う修繕費支出や短大 2 号館及び蜂の巣校舎の解体工事に係る支出があった影響により、前年度比は 90 百万円減少し、1,311 百万円となりました。

管理経費支出は、予算比ほぼ同額、前年度比 1 百万円増加の 502 百万円となりました。

施設関係支出は、学園新校舎建築に係る支出のうち、今年度支払い予定分の一部が来年度以降に支払われることとなったため、予算比 611 百万円の減少となりました。一方、認定こども園の新園舎建築及び既存園舎改修、TamaSquare 整備工事に係る支出があったため、前年度比は 172 百万円増加し、424 百万円となりました。

設備関係支出は、情報処理実習室用パソコン購入による支出が大きかったため、予算比で 32 百万円減少したものの、前年度比 22 百万円増加の 133 百万円となりました。

資産運用支出は、退職給与引当特定資産繰入支出 3 百万円、収益事業元入金支出 30 百万円、減価償却引当特定資産への繰入 181 百万円の合計額であり、予算比 17 百万円減少、前年度比 84 百万円増加の 214 百万円となりました。

上記の結果、翌年度繰越支払資金は予算比 453 百万円増加、前年度比 18 百万円減少の 2,937 百万円となりました。

【事業活動収支計算書】

(教育活動収支)

教育活動収入は、学生生徒等納付金が想定より上振れて予算比で 125 百万円増加したものの、前年度比 41 百万円減少の 5,907 百万円となりました。

教育活動支出は、人件費及び教育研究経費が減少したため、予算比 58 百万円減少、前年度比 99 百万円減少の 5,918 百万円となりました。

その結果、教育活動収支差額は予算比 184 百万円増加、前年度比 57 百万円増加の△11 百万円となりました。

(教育活動外収支)

教育活動外収入は、受取利息・配当金のみであり、予算及び前年度実績とほぼ同額の 17 百万円となりました。

教育活動外支出は、借入金等利息等を指しますが、予算、前年度及び今年度の実績はございません。

その結果、教育活動外収支差額は予算額及び前年度実績とほぼ同額の 17 百万円となり、経常収支差額は、予算比 185 百万円増加、前年度比 59 百万円増加の 7 百万円となりました。

(特別収支)

特別収入は、施設設備補助金及び現物寄付等を計上したため、予算比は 45 百万円増加したものの、前年度比は 61 百万円減少の 45 百万円となりました。

特別支出は、予算比で 4 百万円減少し、前年度に短大 2 号館及び蜂の巣校舎の解体撤去に伴う建物処分差額等があった影響により、前年度比 112 百万円減少の 3 百万円となりました。

その結果、特別収支差額は、予算比 49 百万円増加、前年度比 51 百万円増加の 42 百万円となりました。

(当年度収支差額等)

基本金組入前当年度収支差額は、前年度よりも学生生徒等納付金等の教育活動収入が減少したものの、教育研究経費等の教育活動支出や資産処分差額等の特別支出が減少したことにより、予算比 234 百万円増加、前年度比 110 百万円増加の 49 百万円となりました。

基本金組入額合計は、学園新校舎建築に係る支出のうち、今年度支払い予定分の一部が来年度以降に支払われることとなったため、予算比 606 百万円の減少となりました。一方、認定こども

園新園舎建築工事及び既存園舎改修工事に係る第1号基本金への組入などがあり、前年度比は353百万円増加し、431百万円となりました。

その結果、当年度収支差額は予算比 840 百万円増加、前年度比 243 百万円減少の△382 百万円となりました。また、基本金取崩額 6 百万円があり、翌年度繰越収支差額は予算比 609 百万円増加、前年度比 376 百万円減少の△3, 139 百万円となりました。

【貸借対照表】

(資産の部)

有形固定資産は、認定こども園新園舎建築工事及び既存園舎改修工事による増加があったものの、前年度末比 63 百万円減少の 14, 079 百万円となりました。

特定資産は、退職給与引当特定資産が 3 百万円、減価償却引当特定資産が 181 百万円増加したことにより、前年度末比 184 百万円増加の 6, 146 百万円となりました。

その他の固定資産は、収益事業元入金増加等により、前年度末比 31 百万円増加の 637 百万円となり、固定資産合計では前年度末比 152 百万円増加の 20, 862 百万円となりました。

流動資産は、主として現金預金及び未収入金が減少したため、前年度末比 48 百万円減少の 3, 126 百万円となりました。

その結果、資産の部合計は前年度末比 106 百万円増加の 23, 989 百万円となりました。

(負債の部)

主として前受金及び未払金が増加したため、負債の部合計は前年度末比 57 百万円増加の総額 2, 166 百万円となりました。

(純資産の部)

基本金は、認定こども園新園舎建築工事及び既存園舎改修工事等により第1号基本金が増加したため、前年度末比 425 百万円増加の 24, 962 百万円となりました。

繰越収支差額(翌年度繰越収支差額)は、2. 事業活動収支計算書(4) 当年度収支差額等で述べたように、前年度末比 376 百万円減少の△3, 139 百万円となりました。

その結果、純資産の部合計は前年度末比 49 百万円増加の 21, 823 百万円となりました。

以上